東京歯科大学同窓会々報

110号

昭和41年
4月25日

日本歯科医師会 新執行部に期待する

日本歯科医師会の新らしい執行部は、去る四月一日に発足した。今回の執行部には、わが同窓より、七名の人材を送りこんだ。

同窓会の支持を受けて、副会長に立候補した渡辺昌夫氏は、最高点で当選し、常務理事には、引続いて山崎数男氏（社会保険担当）が再任した。また、理事には、北海道の館山文次郎、山梨の高原寛五、三重の加藤久二、広島の高木健吉、愛媛の正岡健夫の諸氏が留任、または新任された。

これらの方々は、医政面における熟達の士であり、かつ、優れた識見と、豊かな力量に加えるに旺盛な批判精神をもったわれわれの代表として充分信頼できる立派な人達であると信ずるものである。

さらに、四月八日の日歯第一回の理事会において、山崎数男理事は、中央医療協議会にでることが決まり、すでに、同協議会において、氏独特のユニークな保険理論を堂々と展開して各方面の注目を浴びた。

現在、日本歯科医師会がかかえている幾多の課題、保険診療の抜本的改正につながる療養担当規則の改廃、対税施策、会員の福祉に関する問題等々の解決が期待されている。

それらの解決には、鹿島竹中両議員及びその他関係議員を中心とする国会活動とあいまって、全国三万の会員の強力なバックアップが必要なことはいうまでもない。七名の同窓を送りこんだわが同窓会は、執行部を信頼し強力に支援すべきであろう。

全国歯科医師のため、ひいては、全国民の福祉のため、体当りの努力を捧げられるよう切望し、充分な成果があがるよう切に期待してやまない。

御案内

◉六月講演会

◇日時　六月十九日（日曜）午後一時—午後四時　◇場所　母校（水道橋）第一教室

◇テレビ映画と講演の会「エキスパートに勘どころを聴こう」

日本歯科医師会で製作、目下放送中のテレビ映画を上映し、その担当者にさらに詳しく解説をお願いしました。見逃した方はもちろん、すでにご覧の方も、是非御参集下さい。より一層理解を深かめられるでしょう。質問を歓迎します。

◇テーマーと演者

「口腔癌の診断」（口腔外科）長尾喜景教授
「抜髄のかんどころ」（保存）関根永滋教授
「歯齦切除法術式」（歯槽膿漏）木村吉太郎教授
「遊離端義歯の設計」（補綴）河辺清治講師

司会　山本為之理事

◉日曜セミナー

理論はさておき、臨床上、すぐに役立つことを目的として企画したものです。

◇第七回　五月二十九日　午前十時より午後四時　於　母校（水橋橋）クラブ室

「ショックとその処置」

講師　田村八郎博士

つい最近も歯科医による小児の麻酔によるショック死の不幸な事件がありました。転ばぬ先の杖のたとえもあります。日頃の関心と充分な知識が肝要だと思います。

◇第八回　六月十二日　午前十時より午後四時　於　市川病院（国電市川駅下車、市内循環バス、病院前下車）

「内科疾患を有する歯科患者に対する臨床検査を中心として」

講師　鈴木弘造教授
和田知雄助教授

貧血、高血圧、糖尿病、その他の患者で、抜歯、手術等の歯科治療を行う際に心掛けねばならない内科的知識は、必ずや、日常の臨床に役立つと思われます。

●時間　午前十時—午後四時　●受講料　二千五百円　●定員　二十名
●申込　東京歯科大学同窓会事業部

◉夏期講習会予告（詳細は次号に発表します）

七月十一日(月)—十三日(水)保存(治療)　歯科医療管理
七月十四日(木)—十六日(土)保存(充塡)　放射線
七月十八日(月)—二十日(水)口腔外科　矯正
七月二十一日(木)—二十三日(土)補綴　歯科関連医学(小児科、耳鼻科、婦人科その他)

七月二十五日(月)—二十七日(水)小児歯科

●各科　三日間　●受講料　一科目七千円　●申込　同窓会事業部

◉東京歯科大学学会（例会）

◇日時　六月十八日(土)午後一時—午後五時　◇場所　母校講堂

⊙お詫び　諸種の事情により、本号の発行が大変遅れたことをお詫びします。
次号は六月中旬に発行の予定です。原稿締切は五月二十三日(月)です。

新卒業生歓迎会開催さる

母校第七十一回の卒業生百四十六名の本会入会歓迎会が去る三月二十二日、午後三時より母校第一教室において行なわれた。

後藤理事の司会で、田丸会長、大井副学長、佐藤父兄会会長の挨拶があり、その後同窓会員章、および会員名簿の贈呈が行なわれた。高木理事より、会則、共済規程などの説明があり、ひきつづき榎本名誉会頭の発声で乾杯が行なわれ懇親会に移った。席上同窓会役員一同に卒業生より記念文集「楊柳」が贈呈され、出席された多数の教職員とともにこもごもかくし芸を出しあうなどなごやかなうちに五時過ぎ閉会した。

「二月講演会」盛会裡におわる

熱心な会員多数参集

二月二十日（日）午後一時より母校第一講義室において、りっすいの余地なきまでの同窓の出席のもとに開催され、終始熱心に講演を傾聴し非常に盛会であった。

◇オーラルメディシンをおって

加藤　倉三教授

主な内容は前号（一一〇号）の会報に掲載してありますが、歴訪した諸国の風物のスライド、8ミリ映画を豊富に映写され、各国の人情の機微にまでふれたお話しは非常に興味深いものがあった。

◇南加大学主催の補綴学および保存学研修コースを受講して

団長納富哲夫氏ほか参加された団員のうち、榎本、穂積、岩井、北、永井、鈴木、山本、小室、国本、千黒、高橋の諸氏が出席され、初めに山本一成氏より南加大の構内の様子をスライドで映写し、研修コースの概況、ならびに南加大における学生の教育について講演があった。特に教育面では理論と表裏一体となった実習が行なわれ、また行なうことのできる諸設備が完備されていたことなど、教育設備の充実を強調された。さらに現地に活躍されている昭和二十七年卒の小川氏に献身的なお世話をうけ、同窓としてのつながりを感謝された。

（山本一成氏）

ついで、団長納富氏より研修コースについての講演があったが、帰国して日も浅く。研修コースで得た資料は未着のものもあり、また整理ができておらないとのことで、この研修コースを受けに行くための準備について、その心がまえと、これまでこの研修団がどのようにして歯科医学をみて、どう考え、いかに実行してきたかを根本として、それらが南加大の教授陣にいかにうけいれられたか、またそれによってどのような勉強をさせてくれたか、と云うことについてお話ししたいと前置されて講演が始った。とくに、この研修団は過去三年間勉強した成果を研修コースの始まる前日に担当の教授と討論し、それまで南加大側が Restorative Dental Review として編成した初歩的な内容を変更させ、大学内外の有名な教授陣を網羅した研修コースを再編成させるなど日本の歯科医学ならびに母校東京歯科大学の教育水準の高いことを示す機会ともなったとの話しもあった。さらに研修をうけた Restoration については充塡と補綴が一つになったものであると説明され、両者は力学が主体となりこれに生物学が附随しているものであるという基礎的な考えが一致しているなどの見解を示された。

研修した内容については、この研修団は理論的なことがらについてはすでに勉強ずみであったので、実際面における急所的なこと、あるいはその教授のアイデアについて勉強した二週間であったとの講演があり、最後に、「この研修コースをうけるまでの力学的な内容について一つ一つ説明した後に今度の南加大で得たことがらをお話しできれば面白い内容になると思います。」との言葉で講演を終られた。

（納富哲夫氏）

その後、出席された参加団員の諸氏がこもごも二、三分間づつ研修コースならびに滞米中の感想などを発表された。

◇年金についての諸問題

日歯副会長　渡辺昌夫氏

講演会の三日前に納富氏より健康上の理由で講演ができない由の連絡があり、急拠、日歯副会長の渡辺氏にご講演をお願いしておきましたが、納富氏の健康回復が意外に早く、予報通りご講演下さいましたこと、また、講師の先生方がいずれも熱心にご講演下さいましたので渡辺先生の講演時間がとれず渡辺先生をはじめ出席会員には大変申し訳なく、深かくお詫びいたします。講演内容については、原稿を頂き本会報三頁に掲載いたしました。

◆編集部より◆

本紙を充実したものにするよう、次のような企画をたてました。

会員の記事で埋まるよう、早速、ご協力、ご投稿の程お願いします。

㈠ご意見、ご希望を頂きたいもの（テーマーや、人について）

(1)座談会　(2)対談　(3)読物

㈡会員に投稿をお願いするもの

(1)てこずった症例（他山の石となるように）

(2)私の診療。診療メモ。臨床ヒント

(3)臨床上の質問

(4)半頁随筆

(5)地方のトピックス（同窓でかくれた人物、できごと、行事等の紹介）

(6)趣味のコーナー

(7)若い人の意見、老人の意見

(8)写真（季節感のあるもの、地方色豊かなもの等）

(9)求人、求職の広告

㈢母校の教員に執筆を依頼するもの

(1)臨床、基礎講座　(2)臨床質問の答へ　(3)解説（新知識をえるため）

(4)最近の教室紹介（現況、研究の方向、考え方等）

日本歯科医師会年金制度について

日本歯科医師会副会長
渡辺昌夫

日本歯科医師会が三年有余の歳月をかけて検討していた年金制度が、去る四十年九月の代議員会で可決され、二月一日よりいよいよ実施されました。思えば私が日本歯科医師会の副会長に就任した昭和三十七年四月から、三万会員の要望を天の声として、年金制度の創設を発意してから随分思いもよらぬ障害にも出合い年金委員諸氏とも激論を交え乍らもこの大目的を達成し得た喜びは私の医政上の生涯での最大の仕事であったと、自負しております。

年金はなぜ必要か

そもそも現在、吾々の置かれている経済的立場は、世界に例を見ない程の低医療費にしばられ、しかも何等の身分保障もなく、国民医療の名のもとに自らの犠牲によって辛じて維持されているのである。老後保障に思いを致す時、誠に慄然たるものがあります。歯科社会に於ける老後保障としては如何なる蓄財、増財、利殖を考えても年金制度に優る方途なしと云う事が経済学者の助言によっても明かとなり、また厚生省に於てもこの制度に全面的に賛意を表しているのをみても明かであります。

日歯年金の特色

さて日歯年金には、六つの大きな特色があります。このうち最大の魅力は、割安な掛金で大きな保障が得られる事です。例えば、三十才で加入した人は、毎月一千円の掛金で、六十才になれば毎月六千七百八十円の終身年金がもらえます。この人は三十才から三十年間掛金するわけですから、合計三十六万円掛金したことになり、これに対して少くとも十年間は年金がもらえますから、受取年金総額は約八十二万円となります。この年金は本人が生きている限りもらえますから、六十才の平均余命年数を十五年間もらったとしますと、受取年金総額は平均して約百二十二万円にもなります。さらに、掛金の運用を上手にやれば、このほかに積増年金がありますから、受取年金はさらに大きくなります。また本人が六十才に達する以前に不幸にしてなくなったときは、それまでの掛金に年五・五%の複利の利息を附した元利合計額が遺族一時金と返されますし、さらに掛金期間に応じた死亡給付金がもらえます。

なお、加入の途中で歯科医をおやめになってこの制度から中途脱退される方には、同じく掛金の元利合計額が中途脱退一時金として返ってきます。このように日歯年金がいかに有利であるかは、一般に売り出されている生命保険会社の個人年金と比較すればさらにはっきりします。一般の生命保険と同じく早く加入すればするほど多くの年金がもらえて有利なことはいうまでもありません。

例えば同じ毎月一千円の掛金でも、三十才の人には六千七百八十円、四十才で加入した人には三千二百六十円の年金となります。六十才で加入した人は毎月の掛金が二千円で年金は千百五十円です。

日歯年金の検討過程について

年金制度の検討を行なっている時に、非常に強く感じたことは数字の魔術と申しますが、数字に非常にとらわれると云うことであります。

年金の計算は非常に複雑な年金数理というものがあって、面倒な計算をするのですから、信託会社なり、生命保険会社には「年金数理人」という一定の資格を国から与えられている人が行なうことになっております。そして、その計算の結果出て来た答えが会社によって大きく違うことがあります。例えば三十才で加入すると、六十才からの年金がA社では一万円であり、B社では八千円であり、C社では七千円であるというようなまちまちな答えが出てきます。そうするとA社が一番よいじゃないかということに一応なります。掛金が同じで、いろいろな要素があるにしても、答えがそんなに開くということは考えられない事でありまして、どうしてそんなに違うのかという点を十分検討致しました。結果は掛金が同じで、運用するといっても、A社なら一割で、B社なら八分しか運用出来ないというような、そんなに運用の差があることは、現在の経済の常識からいって考えられませんので、運用される率は大体同じように考えられるのは当然であります。

然らば何が原因かといえば、予定利率をある会社は四十九才以下の人については五・五%、六十才以上の人については六%にして計算したとか、あるいは死亡率が違うとか、いろいろなことが要素として働いているのであります。そこで、そう諸条件を全部一つの基準をつくって、再度計算をさせる。というような段階を何回もやりまして、最終的には、出て来る答えは全部同じになるというところまで、何回もやりませんと、われわれの知らない計算上の要素が一つ異っても、出て来る答えは大変違うということであります。

生保なり信託なりの説明を聞いてただ数字の多い方が有利だと早がてんをする半可通の人がままありますが、年金制度を検討する際は上記の事柄を銘記されたいと思います。表面の数字には、それぞれの理由があることをよくご承知いただきたいと思うのであります。

老令者について

日本歯科医師会のように、会員の平均年令が五十才近くの会でこれを実施致しますので、老令者の問題も、非常に大きな問題でありますが、この点も若い方の負担が余り大きくならない範囲で老令者にも有利な方法を考えるということで、死亡給付をつけたり、また年金財政の安全性という点から、その死亡給付も、年金支給開始前のみに限定するとか、五十五才以上の方は三年以後は加入資格を制限するとか可成り考えて出来てをります。なお、四十九才までの方は一口千円、五十才以上の方は一口二千円で共に十口まで加入出来ます。

福祉共済とあいまって

日本歯科医師会福祉共済部も昨年十週年を迎え十六億以上の共済金を三千名近い不幸な会員に給付致し、本年四月現在で一億五千円の残高を示している状況でありますが、まだ四千近くの会員が未加入であることはまことに残念であります。年金の方は、共済部と異なりまして、すべての金銭は受託金融機関（住友、三菱、三井、大和、東洋の五信託会社並に第一生命、東京生命の二生保会社）が管理運用致しますが共済部の方は、いわゆる自家保険でありますから、日歯が管理をいたします。

年金と共済が車の両輪となり会員の福祉増進に寄与する次第であり、両方に加入されて老後の設計にプラスされますよう念願します。

なお、四月十五日現況では、年金加入者数、九千七百四十一名で加入口数は三万二百八十九口であり、七月と十月の二回の加入月の予想は二万九千人、口数七万二千口を期待しております。

（同窓会「二月謹演会」講演原稿より抄約）

× × ×

新顧問・支部長決まる

顧　問（あいうえお順）

荒巻広政、荒谷　滝、青戸陽一、井合関三、五十嵐庭治、五十嵐嘉秋、池田明治郎、石井次三、井上　真、入江義次、上田貞三、大塚豐美、小椋壽男、加藤久一、片山清一、河村　弘、菅野　修、九津見　肇、黒崎　博、小林与兵衛、斎藤　久、斎藤静三、佐竹健造、沢口源作、佐和和美、椎貝敏郎、杉山不二、杉江玄昭、鈴木重五郎、春原定栄、清藤勇吉、高木健吉、高原寛五、嶽崎玄生、舘山文次郎、徳永寅蔵、中村恒吉、長屋　弘、花岡十之丞、福島秀策、堀内　清、堀江鉦一、松本　績、正岡健夫、講上喜久男、宮下一郎、矢崎正方、山川卯平、山口玄洋、山口正人、横矢重包、吉沢八郎、若葉　清、渡辺昌夫、

支部長

北海道連合＝筒浦武夫
札幌＝林　武夫　函館＝向山英三
小樽＝長谷川修　旭川＝木津義雄
室蘭＝鈴木又吉　釧路＝服部敏夫
十勝＝杉田末吉北見＝佐々木三知夫
空知＝成田武雄　青森＝石山芳雄
宮城＝梅津義男　秋田＝山内馨児
岩手＝金子康雄　山形＝坂田健次郎
福島＝武藤　実　茨城＝上野　昭
栃木＝岡田正信　群馬＝森下寿夫
埼玉＝小杉太郎　千葉＝高橋省己
学校＝長尾喜景　千代田＝山路千秋
丸ノ＝小谷虎次郎　日本＝阿保喜七郎
内＝
京橋＝赤穂英一　芝＝今野忠夫
麻布＝北川貞一
赤坂＝鈴木録二
四谷＝
文京＝中村正尾
下谷＝安保正憲
品川＝大塚豐美
目黒＝中尾一彦
大森＝安達　直
世田谷＝渡辺正信
渋谷＝押見　宏
杉並＝酒井春雄
北＝飯島金司　滝野川＝松永芳太郎
荒川＝清信静夫
練馬＝高橋六一
深川＝小坂　力
葛飾＝中島頼輔
八南＝中村　旭
神奈川＝小池光雄
東三＝城所定雄
河
岐阜＝中島律郎
新潟＝勝井義介
中信＝山崎健三
富山＝関剛三郎
福井＝五十嵐嘉秋
和歌＝明楽佐一郎
山
京都＝小池　弘
兵庫＝沢田英三
鳥取＝小徳静夫
島根＝佐和和美
徳島＝猪子寿一
愛媛＝佐藤　一
福岡＝北　正明
長崎＝田中健之助
熊本＝大関英明
鹿児島＝新原広光
牛込＝北村宗久
淀橋＝高橋敬文
浅草＝石原文海
墨田＝関谷三郎
目黒＝中尾一彦
蒲田＝佐々木力
玉川＝原島　登
中野＝谷　圀輝
豊島＝能勢　要
北川＝松永芳太郎
板橋＝谷　一昌
足立＝日高国雄
城東＝古川忠夫
江戸川＝田口芳治
北多摩＝吉井三郎
山梨＝大森茂春
尾張＝滝　義胤
西三＝平岩宗平
三重＝柘植三郎
北信＝矢島正三郎
南信＝堀英一郎
石川＝津島邦俊
滋賀＝藤原鎮雄
奈良＝岩崎　之
大阪＝村田義幸
岡山＝渡辺　茂
広島＝中村議兵衛
山口＝伊藤　保
香川＝平田正儀
高知＝横矢重和
佐賀＝栗林真吾
大分＝野上順平
宮崎＝浜田良箕

本部短信

◇**役員出張**

1月29日　千葉県支部新年会
大井副会長、渡辺理事

◇**行　事**

2月10日　定例役員会
2月18日　緊急役員会開催
2月27日　医政部第一部会開催
3月8日　学校と医政部懇談会開催
3月17日　日歯代議員懇談会開催
3月18日　医政部第二部会開催
3月22日　卒業生歓迎会開催

◇**支部長交替**

旭川支部　木津　義雄
北支部（旧王子）　飯島　金司
芝支部　今野　忠夫

◇**新入会員**

伊丹　俊夫　岡山市野田屋町二丁目三ノ九
田沼百合子　桐生市宮前町二丁目一九七八

◇**火災罹災会員**

診療所全焼四二、七　13　吉武観八郎
近　火　同右　26　是永　辰寿

◇**同窓会事務局人事**

退職四二、三、三　吉田　宅子
新任四一、四、一　久保田和子（短大卒）
〃　四一、四、一　有江　晴美（高校卒）

右のように永年本会のため尽してこられた吉田さんが、一身上の都合により退職されました。新らたに二名の方々にお手伝い願うことになりました。よろしくお願いします。

◇**訂　正**

小林一郎理事の卒業年度は、昭和二年の誤りでした、お詫して、訂正します。

◇**日本歯科医師会へ同窓七名**

四月一日より新発足した日本歯科医師会へ、母校同窓から七名の方々がでられることになった。御活躍を期待する次第である。（第一頁参照）

◇**明楽光三郎**氏が今回和歌山県海南市長に見事当選されました。

謹　祝

◇本会佐賀県文部長**栗林真吾**氏は、勲五等双光旭日章を受章されました。

謹　祝

◇**塙真一副会長急逝**

本会副会長塙真一氏は、かねて、膵臓癌のため市川病院に入院、小康を得て退院、自宅療養中であったが、去る五月四日、逝去された。葬儀は、五月十五日、日本橋に於いて行なわれる。祈御冥福。

◇**逝去会員**

大8　林　保　四一、一、一〇　長野県
岩本　守衛　四〇、三、一〇　埼玉県
医花田　豊次　四一、一、一三　足立区
谷　泉　四一、一、一三　埼玉県
大2　小谷　政通　四一、一、一三　千代田区
大10　石井来四郎　四〇、五、　三重県
井上岩衣門　四〇、二、一三　岡山県
木村　種生　四〇、九、一三　福岡県
鈴木　琢男　四一、一、一三　群馬県
8　塚田　武男　四一、二、八　大田区
小竹　豊　四一、二、一三　茨城県
大2　伊藤初太郎　四一、三、七　愛知県
9　北川　大輔　四一、三、七　三重県
大2　吉岡　熊蔵　四一、一、一七　新潟県
大7　吉田　秀雄　四一、三、八　山口県
山浦　土雄　四一、三、三　東京都

右の方々が逝去されました。哀心より御冥福をお祈り致します。

4つの色調で広範囲な用途

カラープロテクトセメント

歯髄保護と同時に永久合着裏装に好適
非膜度が薄く，前装歯に賞用されます。

東京・渋谷　ネオ製薬工業株式会社

◆包　装◆

ライトイエロー	30g	¥ 280
ジンジバルブラウン	30g	¥ 280
ライトグレー	30g	¥ 280
ゴールデンブラウン	30g	¥ 280
液	50g	¥ 200
1セット		¥ 1,200

母校より

第七十一回 卒業式挙行さる

東京歯科大学第七十一回卒業証書授与式は、三月二十五日（金）午後一時三十分より母校ホールで挙行された。

長尾学生部長の司会により、まづ国歌斉唱、つづいて北村学監の学事報告が行なわれた。現在本学に在籍する学生は進学課程、専門課程合せて九百四十三名で、今回の卒業生はこのうち百四十六名であった。これを専門学校許置以来の卒業生と合せると七千八百十九名になり、高山歯科医学院設置以来の卒業生を通算すると八千百九名になるとのこと。

つづいて、卒業生一人一人に杉山学長より証書の授与が行なわれ、温情あふるる告辞の後、石河理事長および田丸同窓会長の祝辞が述べられ在学生代表の送辞、卒業生代表の答辞、校歌合唱が行なわれ四時盛大裡に終了した。

ひきつづき、第一教室で全教授と父兄との懇談会が行なわれた後、午後五時よりホテルニューオタニで卒業生による謝恩会が開催され、新卒業生、教職員、父兄共々在学六年間をふりかえり、終始和やかに歓談した。

衛生士学校卒業式

翌二十六日には衛生士学校の卒業式が行なわれた。関根校長の告辞等型の如くとり行なわれ、式後、椿山荘において謝恩会が開催された。

◇人　事

教授昇任

助教授　町田幸雄（小児歯科）41・4・1

助教授昇任（講師より）

高橋和人（解剖）41・1・11
今西孝博（小児歯科）41・4・1（各通）清水秋雄（口衛）江崎梅太郎（補綴）高橋一祐（保存）浅井康宏（保存）氏家英峰（口外）高北義彦（口外）

講師昇任（助手より）41・4・1（各通）

野村浩道（生理）谷本義文（生理）若月英三（解剖）今村嘉男（保存）佐々木次郎（口外）重松知寛（口外）

第二回 学校債追加募集

つぎの要領で、学債を募集しております。各位の御協力を切にお願い申し上げます。（募集要項抜萃）

目的　A東歯大病院病室、手術室改装　Bアイソトープ研究室、その他研究室設備改善　C小児歯科講座新設、補綴学第三講座増設　D市川病院借地買収、その他教室改装

募集金額　一億二千万円
債券壱口の金額　五万円
利率　年八分（一口につき年額四千円）
利払方法　毎年六月三十日、経過
返済期限　昭和四四年六月三十日
〃　四五年六月三十日
〃　四六年六月三十日
（証券番号により区別）
申込方法　本法人所定の申込書及び印鑑用紙に必要事項を記入、捺印の上、母校会計課へ
申込期限　募集額に到達後、速やかに締切ります
払込期限　申込書提出後、三ケ月以内に完納のこと

◎詳細については、東京都千代田区神田三崎町一ノ七　東京歯科大学財務部にお問い合せ下さい。

講師新任　41・4・1（各通）

（小児歯科）野間歌子（保存）難波肇（保存）中村靖夫（薬理）中井一仁（衛生）高江洲義矩（補綴）溝上隆男

以上東歯大学院卒業

助手昇任（副手より）41・4・1（各通）

河合輝久（微生物）柿崎君子（薬理）住井俊夫（理工）上杉光永（放射線）大沢晋（矯正）沖光博（矯正）小林千恵子（矯正）浅野薫之（保存）林善紀（保存）鈴木義隆（保存）大沢一博（補綴）佐藤公雄（補綴）高橋諄吉（補綴）堺清一（補綴）河村秀明（補綴）大井基道（口外）大月核子（口外）後藤潤（口外）笹本和子（小児歯）山口勝康（小児歯）県信哉（市病歯）稲垣一臣（市病歯）

助手新任

病理　桑名泰彦（大学院卒）4・1
口外　野間弘康（大学院卒）4・1

副手新任

薬理　都筑新太郎（千葉医大卒）5・1
理工　中村倉子（東薬大）4・11
微生物　山本綾子（共薬大）4・11
病理　井上陽子（共薬大）4・11

辞　職

教授　木下隆治（進学課程）4・30

Dental management consultant としてアメリカ研修ならびに研修所開設のため

講師　太田孝夫（市病耳鼻）41・1・31
講師　森崇（衛生）40・12・31
講師　安川奎一（市病内科）41・1・15

川崎市立井田病院成人科医長になるため

非常勤講師　廖順元（市病外科）40・12・31
助手　鈴木功一（市病小児）41・3・31
副手　大和雄三（口衛）41・3・31
副手　菅波啓（口外）41・3・31

昭和四十一年度非常勤講師

解剖　大山栄一、渡辺裕、浜野文夫、都富典雄、佐藤勝也
組織　木村亮治、島田朝晴
生理　伊藤秀三郎、大久保信一、大御雅文
病理　吉村三郎、山本勝一、吉井久、岩淵正夫、百東尚彦、小森伴雄
生化学　森匡子
薬理　木津弘司
理工　佐藤敏治、大塚昌助
衛生　河合正計、飯塚喜一、森崇、長谷川孝義
口衛　佐藤貞勝、高橋一夫
微生物　森山徳長、橋口綽徳、奥村晴一、石塚達夫
放射線　島野達也、尾内能夫
保存　山下又次郎、西条征男、駒橋武、松山茂樹、栗山純雄、渡辺祁馬、森本優、堀江英二、武石弘
口腔外科　中川重俊、榎本岩司、森田多賀雄、成毛二郎
補綴　河辺清治、饗庭格太郎、阿部勤、桜井裕
矯正　佐々木八郎、延島三男
市病歯科　宝田勇
法医　上野正吉
耳鼻咽喉科　佐藤重一
皮膚科　永井隆吉
社会歯科　水野銈太郎

専攻生採用（解剖）

小西保22年卒　笠原文武39年卒　片桐敏夫31年卒　寺川国秀34年卒　笠原正和31年卒

▼世田谷支部（世水会）

昭和四十一年一月二十七日寒風肌を刺すなかを、本部より田丸会長、大井副会長を、お迎えして恒例の世水会新年宴会が新宿の芙蓉会館で盛大に挙行された。定刻を過ぎる頃にはさしも広い芙蓉会館の大広間も一杯となり幹事をひやりとさせる。

午後七時三十分司会の山崎理事の指名に依り後藤世水会会長挨拶、続いて田丸同窓会会長御挨拶、次いで渡辺日本歯科医師会副会長の年金問題について熱烈なるお話を伺い私達の老後保障の重大さを再認識する。大井同窓会副会長より世界最初歯科アイソトープ研究室を持った事をお聞きして大いに誇りに思い感激する。それにしても先立つものは資金問題。我々一人でも多く学費の引受けに、協力せねばならぬと思う。昭和四十五年には東歯八十周年記念、血脇先生生誕百年の記念事業が挙行されるとか。あらためて東歯の歴史の深きに驚かされると共に、この光輝ある伝統にそむかぬことを、ひそかに決意する。

林東京都歯科医師会副会長より、「東歯よ団結せよ、強くなれ！」の檄を戴き、我々同窓生奮起せねばならぬ事を痛感する。

この頃になると宴席もたけなわとなり、芙蓉会館の専属バンドに合わせて、会員の余興が続出、歌に、踊に、奇術に、くろうとはだしもあれば、珍無類もあり、さらに大井、林先生方の飛び入りもあり、和気靄々の中に、閉会の時刻となる。皆もの足りないような顔をしていたが、渡辺正信世水会副会長の閉会の辞に二次会は御随意との言葉に爆笑、続いて河村先輩の音頭に万才を三唱、午後十時開散。誠に家族的な温い、早くも春を思わせるような会合であった。

（出席者）梅原愛三、小沢登、宮原長知、尾崎行弘、大塚勝康、大畠美津子、加藤義昌、山崎智、河瀬隆、林清、奥富千鶴子、中尾俊郎、二階堂胤平、森田敏弘、渡辺弘、渡辺正信、河村喜久治、鹿野悦生、若田部敏行、渡辺昌夫、小熊一路、菊池美彦、後藤芳郎、杉本陽之助、寺田昭道、堀春男、山根照人、横田由三、吾妻信明、野村孝、三輪英武、三島平八郎、柳沢敏彦、藤倉正之、石橋寛祐、陸井四郎、田中省順、田中彰、荒畑達雄、石井和也、両角彦一、中島善和、八尾敏則、山本貞之、佐々木良一、五百住一夫、伊藤孝、蒲滋、田島尚嗣。

（佐々木良一記）

▼宮城県支部

杉山学長、田丸会長、就任祝賀会

昭和四十一年一月二十八日午後六時。仙台市、松竹において開催。

三宅副支部長の名司会のもとに、梅津支部長の挨拶、学長と同級生であられる菅野修先生のお祝のことばがあり、両先生に記念品を贈呈した。これに対し、両先生より謝辞が述べられ、閉会のことばで祝賀の式をとじ記念撮影を行う。

ついで別の大広間において、祝賀の宴を開幕。その昔伊達百万石、竹に雀の紋どころ、青葉下の名妓の舞を披露、宴酣となり、武田善四郎先生の唄うお国自慢の民謡、さんさしぐれに会員一同手拍子をとり大合唱。

美酒の香たかく、美妓の酌に酔ひ、旧交をあたため、互の健闘を祝福す。宴のおわりに、校歌齊唱し、杉山学長、田丸会長の御健闘を祈り万才三唱祝賀の宴を終了した。

（中嶋記）

▼豊橋豊徳会

母校衛生学教室の竹内光春教授が、公用のため四月十六、十七日の両日、名古屋市に出張され、その帰途、わが豊橋豊徳会々員中神義氏（級友）を訪ねられるとの話を、中神氏から四月十三日に聞き及び、会長西村禎祐先生ともご相談し、急いで、会員諸氏に連絡をとり、四月十七日午後二時から、豊橋駅前松月堂特別室を会場に、竹内教授歓迎茶話会をもつことになった。

当日天候には恵まれ、行楽日和であり、突然の会合のために、会員夫々に既定の行事計画もあって、参集者は僅少で、竹内教授には、誠に申訳ない歓迎ではあった。が、所謂三河人特有の〝口下手〟でも、気持だけは温くお迎えできたものと思っています。

参会者は夫々、自己紹介のあと、先生のご専門の衛生学の片鱗のご披露に、特に昨日今日と、名古屋で新しい全国歯科大学担当教授の、教科改訂について、意見交換の直後だけに、興味深い最近の話題に、従来の口腔衛生週間の意義の、掘り下げたお話など、極めて有意義な数刻であった、午後五時頃、一応会を閉じ、有志で、夕食会を同駅前麻屋旅館において、ご一緒をして、豊橋最終の上り「新幹線」で、お見送りした。

当日、先生のいわれた、〝ムシ歯は口腔衛生学の、無償で配布された、歯の教科書である〟のおことばは、誠に印象的で、その意味深長であると共に、私共も、将来の大きな示唆と考えたいと思った。（彦阪記）

▼神奈川県支部

先号に神奈川県支部は、一昨年より小池光雄会長を中心に「全国同窓会のモデルケース」をスローガンに、極めて活発な同窓会活動を行い数々の成果を挙げ得た事実を紹介した。

四月二十一日、わが新制同窓会発足以来の悲願である『母校で一日を』を母校の積極的な御協力と、小池会長の火のような熱意で堂々大成功のうちに遂行出来たのである。

午前中、学内自由見学。昼、昼食会。午後、立体シンポジウム――そして最後に懇親会という内容である。

母校を慕って参集した会員は、ウィークデーにも拘らず、実に百九名の多きに達し、支部活動としては恐らくは史上空前の壮挙と思われ、うち建てられた「金字塔」は不滅の光りを放つであろう。

午前十時、松宮同窓会事業部長御挨拶の後、白衣をチョイとまとった一日入学生達はクラブ室迄に来られた各教室員に誘導され、それぞれ希望の科に散らばった。各教室では今日のため特別のケース、デモ等を用意され、主任教授はじめ全医局員の方々が指導に説明に専念して下さった。

自分達が学生の頃とはすっかり衣替えをした教室や、大きく変貌した教育内容を、まのあたり見て、至る処感嘆の声しきりである。

十二時、昼食会は杉山学長、大井院長、北村学監を囲んで和やかに行われた。収容人員八十人のクラブ室では座りきれず、ごった返す学生食堂でやっと飯にありつけた会員もかなりあったようだ。

午後一時、シンポジウムは本会々

員丸森賢二氏と山本為之同窓会理事の司会で、講師には放射線—岩野、小児歯科—町田、矯正—瀬端、保存—石川、膿漏—佐藤、外科—高橋、補綴—鵜養という第一線に活躍しておられる新進気鋭の若手の先生方で行われた。

テーマは各教室のトピックスに主眼がおかれ、激しいディスカッションに熱気をおびた空気が四時間という時間をほんの一瞬の感じで吹き去って行った。

今後六時、懇親会は、市ケ谷私学会館で盛大な立食パーティーで行われた。

百名を超える会員と二十数人の母校先生とで広い会場も身動きも出来ない程である。

田丸会長、福島前学長、大井、北村の諸先生の御挨拶は申し合わせたように「この姿こそ全国のモデルケースであり、斯くあらねばならない」と力説され、更に若い会員の出席が圧倒的に多いのも、本同窓会の堅実性を裏付けていると称讃のお言葉を戴いた。

松宮教授の乾盃の音頭で宴会が始った。

今回の歴史的壮挙が見事に成し遂げられたのは杉山学長はじめ母校諸先生の真摯なる御助力によることは勿論であるが、特に松宮事業部長には終始、おんぶしてしまった。何とお礼を申し上げたらよいか筆者には涙が出て何も云えない心境である。

私学会館には松井教授、シンポジウムには渡辺教授と山本理事に大変なお骨折りを賜わり、また、原同窓会事務長には縁の下の力持ちになって戴いた。ここで満腔の謝意を表すると共に、大挙押しかけて母校をお騒がせし御迷惑をおかけした事をお詫び申し上げます。

（小見　勇記）

丸山広司君（昭和八年卒）の死を悼む

橋本　栄

「丸さん」の愛称で親しまれていた君は、去る三月三十一日午後九時、五十七才の男盛りというのに、逝去された。彼は四海会の人気者であった。郷里は新潟県三条市、中学時代はバスケットの選手をしていたが、東歯入学後は陸上競技部で活躍した。東歯大競技部は現在、全日本医歯薬獣陸上競技大会で七連勝の輝かしい成果を収めているが、彼はその先駆者の一人である。彼と私とは、この競技部以来三十六年の交際であった。

彼は、東歯卒業後、名古屋、満洲を経て郷里の三条市に開業したが、戦後決意して上京し、杉並から練馬に移った。練馬の開業は盛業であったが、一昨年同志と共に伊東に遊び、旅先で第一回目の脳溢血の発作のため倒れた。以後自宅で静養しながら治療に当っていたが、次いで第二回、第三回の発作が起った。昨年、長男が獣医師となられるのを待って、歯科をやめて、獣医科を開設し、長男の成長を楽しみにしておられたのに、第四回の発作は遂に致命的になってしまった。その病気生活の間、地元の練馬東歯同窓会支部、全国の同級生有志から、「丸さん」を救えとの激励と援助が続けられた。全く涙ぐましいことである。

「丸さん」は細い眼、女性的な身振りと談笑が印象的であるが、時には意地張りの片鱗を見せて、他人を驚かせた。大好物の「やきとり」の串を特徴ある口端咬合で、何十本もシゴキ、呑み、歌った昔の彼が思い出されてならない。

未亡人となられたチトセさんは、獣医となって一家をささえる長男の同君と共に、三人の娘さんの将来のために、多難な道を辿られることであろう。私達は「丸さん」の御冥福を祈ると共に、御家族の御多幸を願って止まない。御遺族の住所は東京都練馬区関町四の五四六（丸山チトセ様）である。

母校学生会より

演劇部O・B観劇会の記

去る三月十三日、日比谷の日生劇場で「泥棒たちの舞踏会」という芝居がかかっているということを聞き、いまから十年前母校の演劇部でこの芝居にとりくんだ一行が揃って観劇した。うららかな春の午後お濠端の豪華な劇場に集ったのは、落合、大国（5）坂登（6）延島（7）木津、宮下（達）、大門、菊池（8）川又（9）中井、清野、安部井、松山（小野）（10）牟田、福島（敏）（12）小林（伯）（13）

それに進学課程の平井教授。

卒業以来始めてという（芝居をみることも、お互にあうことも）連中も多く、ロビーでやあやあと話しこんだのち芝居をみた。舞台に当時のった連中は自分の役者のセリフを胸の中でつぶやき、裏方をやったものは金のなかったなかで工夫した様々の装置を憶い出し、くい入る様に身をのり出して二階正面のA席でこの華やかな舞台と、赤坂公会堂の過ぎし日の舞台との交錯した情感を楽しんだ。

芝居のはねた後かねて用意の日生ビル七階の来賓室で懇談会。食む程に、しゃべる程に芝居のことどもが憶い出され、昨日の様に当時の青春の日々が目前に現われてくるのだった。去るに難くその後二次会、三次会があった由。

当日御出でのなかった諸兄姉にせめてこの拙文よりその状況をくんでいただきたく、久しぶりの落合節を御聞かせ出来ないのがただ心残り。

（菊池）

懇親会の席上、計らずも演劇部OB会を作り、また、現役の芝居も観劇しようという話になり、とりあえず幹事を選出をした。

また今年は、六月二十五日、お茶の水日仏会館で行われる演劇部公演「ぼくはエルサレムのことを話しているのだ」を見ること。秋に観劇会を兼ねた第一回OB、OG会を開催すること。など話し合った。当日御案内出来なかった諸先輩には誠に申しわけなく、速急に名簿を作成の上配布致しますので悪しからず御了承の上、御協力下さい。

なお、幹事は落合、川又、中井。

（中井記）

母校学生会の組織

現在の学生会は本部を水道橋の大学本館地下の一室におき、在学する全学生が会員となり、杉山学長を最高顧問とし学生の自主的な運営にまかされている。運営の中心は全体総務委員会によってなされ、それはさらに企画委員会、情報宣伝部、歯学連部、厚生部、渉外部、文化部、運動部、書記局、財政部にわかれている。運動部は十三、文化部は十一のクラブがありその外にそれぞれ三つの同好会がある。文化各部には部長として教職員が相談役となっており、学生の七十%はこれらの部に所属し六年間の大学生活を有効に楽しんでいる。

クラス会だより

十年会
大正十四年卒

来る五月二十二日より二十四日まで、二泊三日の九州地区十年会総会は、川又軍治君の当番幹事のもとに挙行を決定しました。

五月二十二日（日）午前十一時、別府温泉の、清風ホテルに集合、各地見物の後、同ホテルにて一泊。二十三日（月）九州横断道路にて、阿蘇山上より熊本を経て島原観光ホテルにて、総会開催、同ホテルにて一泊、二十四日（火）雲仙より長崎に至り、市中見物の後解散パーティを行い、各自会員の自由行動とし十年会総会を終了いたします。

時あたかも陽春五月、太陽とみどりの国九州の総会とて、全会員の参加と夫人並に、御令息、令嬢の方々の出席を祈ります。（白須費）

一志会
昭和十七年卒

◎総会ご案内

さきに、地元幹事より、通知があり、近日中に詳細なお知らせがあるそうですが、私に知らされた内容を念のためお知らせします。

一、日時は五月十四日（土）と五月十五日（日）

一、場所は愛知県三河湾三谷温泉松風園（デラックスホテル）

一、会費は七千円。（現地の交通費その他を含む）

第一日目は、午後一時三谷温泉、松風園集合。三河湾一周（貸切遊覧船）。六時総会、宴会。

第二日目は、朝潮干狩（ホテルのすぐ前で、丁度シーズンなので面白いと思われます）九時出発、豊川稲荷、田原城、華山遺跡、フラワーセンター、伊良湖岬、蔵王山展望台等を観光し、午後三時豊橋駅で解散の予定だそうです。

足をのばせば、伊勢、志摩はすぐ目の前。車の人は、フェリーボートを利用し、伊勢志摩スカイラインのドライブも快適でしょう。

いずれにしても、南国情緒豊かな知多半島と、常春の渥美半島に抱かれた三河湾には、大小の島々、入り組んだ海岸線のおりなす素晴らしい景観をみることができるでしょう。

地元では、青木、沢田、奥平、平野、畑中、原、山崎、桑ケ谷、加藤、伊藤の諸君が数回の会合を重ね、クラスの皆さんに報いたいと計画を練っておられるとのことです。まだ、返信をされていない方も、都合をつけて、是非参加されるよう、おすすめします。（渡辺）

五十二期会
昭和二十二年卒

二十周年記念アルバム編集のための発起人会を二回、東京在住者だけで開催。

席上決定事項

一、種々の都合上、東京在住者が中心となって進めていく。編集委員長、山崎文男。委員、田村（静岡）、関田、田熊、弘田。他に協力委員約二十名。

二、地方代表、約十名の方に協力委員としてお願いする。

三、四月十四日に東京の第三回会合を開き、詳細を決めクラス会全員各個人宛に書類を送付する。

四、連絡、書類送付先は東歯大病理、田熊宛とする。

五、来年度、記念クラス会は北海道の方、全員にお願いする。

運営上、やむをえずどうしても東京中心となってしまいますが、この点、諸兄のご諒解をお願いします。

地方の方、何かご意見ありましたら是非ご一報ください。

ジーベン会
昭和三十四年卒

第八回ジーベン会開催のお知らせ

ジーベン会の皆様にはお変りなくお過しのことと思います。先般行なわれました第七回ジーベン会も浜松弁天島（ホテル丸文）にて、六十名出席者。盛会裡終了。

浜松地区幹事諸氏の御尽力を深く感謝いたします。さて、当日総会席上にて、次回ジーベン会開催地を討議の結果、大阪地区と決定、幹事に八木住井両君が選出されました。

第八回ジーベン会の概要

一、会場　有馬温泉　兵衛甲陽閣

一、期日　昭和四十一年十月十五日（土）午後六時
昭和四十一年十月十六日（日）現地解散
（ゴルフ等準備有）

一、集合　昭和四十一年十月十五日（土）午後一時半
新大阪駅
同午後二時出発、バスにて六甲山ドライブウエイ経由現地五時着
（予定）

一、会費　六千円（オミヤゲ付）

なお、詳細はおって御連絡致します。奮って御参加下さいます様御通知申し上げます。（若松記）

発行所　東京都千代田区神田三崎町一ノ七
東京歯科大学同窓会
電話　東京（二六二）三四二一（代）
編集兼発行人　渡辺冨士夫